



目 次

ごあいさつ(工学部長、校友会長).....	2
昭和57年度第25回通常総会報告.....	3～4
校友菅野教授の誕生を祝う.....	4
日本大学会館の設計について.....	5
スウェーデンを訪ねて.....	6～8
校友短信.....	8～9
支部だより.....	10
キャンパスミニメモ.....	11
事務局だより.....	12



坪井病院(郡山市安積町)の屋上から眺めた
日本大学工学部の遠景。写真中央には東北
新幹線が見え、その下方は安積町の町並、
上方の山は東方の阿武隈の山なみである。

ごあいさつ



日本大学工学部長
廣川友雄

郡山のキャンパスは、今、緑の一番美しい季節を迎えております。浅い緑、深い紺青ともいいたいような緑、阿武隈沿いの森を歩った者は太い杉の幹の下にある灌木、草花を思い出して下さい。先日、朝8時頃、正門からの道を雉子が歩いていました。尾長鳥はよく見かけます。

近頃、各クラブで、開設20年、30年を期してOB会を結成するものがふえてきました。記憶にあるものを拾っても、写真部、ワンダル部などがあります。先日或るクラブの学生をクラブ活動に関連して罰しました。直ちにそのクラブの第一回の主将および幹部、それは10年以上前に卒業した者でしたが、謝罪にやって来ました。この連れが人物を生むのだと感じました。

7月10日には今年停年により現職を退かれた土木工学科の新田先生の古稀の祝があり、その時、300人以上の校友の諸君が集まり多くのなつかしい諸君に会いました。また学部祭に合せて校友が母校を訪ねる会を、昨年校友会と共に催したところ、可成りの校友が訪ねてくれました。これは今後も続けられることになっております。

このような際、校友諸君は、卒業年度にもよりますけれども母校は立派になったといってくれます。現在、他の大学に比べてみると普通の建物ではありますが、これが40ヘクタールの敷地内に緑にかこまれている姿は美事だといえましょう。なお、楽しいことは、土曜の午後、日曜日などには、敷地東の広いグランドが学生で一杯になることです。5,000人の学生の半数以上が学部周辺の下宿、アパートなどを宿にしており、土、日ともなるとソフトボール、野球などで込み合うというわけです。心身共に健康な技術者が育つてゆくのを楽しみしております。

所で近年は、世界の最先端でしのぎを削る日本の技術界に卒業生を送り出して行くのですが、そこは情報過多、価値観の多様化の世の中ともいわれています。ただし価値観といつても経済的価値につながるものは多様化し、変化するであろうが、人の価打ちというものは容易に変るものではない。信頼し信頼される間柄を保ち得る人柄の価打ちは、その人に備わったものであって、立派な仕事をそのような間柄の人達によって為し遂げられてゆくものと考えます。校友の諸君に会ってこの人柄は郡山で育ったのではないかと思われるようなときには胸のすく思いがします。

世界を相手に息づいている日本の技術界で健闘している校友諸君の御健康を祈ります。

(日本大学教授、工学部校友会顧問)

ごあいさつ



日本大学工学部校友会長
武田仁幸

会員諸兄、お元気にて活躍の事と存じます。

校友会報も創刊以来第40号の発行をみるにいたりました。これも偏に諸兄の協力によるものと衷心より感謝申し上げます。

「人間は40才から自分の顔をつくる」と先人たちは申しております。会報もその歳になり、自分達の会報として増え内容を充実させるべく努力する考えでございますので、一層のご協力をお願い致します。

過日、学部主催による父兄懇談会が全国各地で催され、これを機に校友会の支部総会やOB会等にて先生方との懇親会を催していただき、私も出席して痛感いたしましたことは、諸兄がその地場において、もう指導的な地位を築き本校の卒業生の面倒を見ておられる姿に接し、心強く感じた次第です。

しかし、国際的に目を転じますと、対日貿易摩擦やIBM事件、国内的には対外輸出不振、公共事業抑制によって不況風が吹いているなどと言われておりますが、資源の乏しい我が国で、これほどまでに経済の成長ができたのは、技術的な生産向上と明治の学校教育制度が現在の国家にしたのではないかと思います。

諸兄も外遊の機会が数多くあると思いますが、アメリカ、ソビエト、この二つの大国でさえ、大学受験に合格した何パーセントかの学生は、学資の面で入学できずにいると聞いています。しかし、現在の日本ではどうでしょう。受験し、合格した学生はほとんど入学しております。このように教育面ばかりではなく、衣、食、住、すべてのものに恵まれすぎております。

こんな笑い話があるそうです「銀座のネズミは糖尿病になり、家庭のペットも糖尿病」この糖尿病をなおす者、これこそ次の時代を担う技術者であり、技術革新であると思うのです。常に求められ、そして求めるものに挑戦してこそ、眞のエンジニアであると信じます。IBMからの借りものではなく、独立独歩の精神で開発に努力されますよう心から祈るものであります。

本年度の校友会目標を申し上げますと、第一に会員名簿の発刊、第二に母校を訪ねる会の実施と充実、第三として支部、支会の充実をはかりたいと思っております。

日本大学九十周年記念事業でありました「日本大学会館」が立派に完成し、6月21日に落成式があり私も出席してきました。多くの校友のご協力によって建てられたもので、私からも感謝申し上げます。多くの校友諸兄が来館されますよう待っております。

集中豪雨による被災地の九州方面の諸兄には、心からお見舞申し上げ、会員皆々様のご健勝をお祈り申し上げます。
(土木工学科3回卒、東和工業㈱)

昭和57年度第25回通常総会報告

第25回通常総会は、今年6月に開業予定の東北新幹線と花見の話題でいっぱいの4月24日(土)午後3時より、日本大学郡山研修会館に於いて、会員多数出席のもとに開催された。

総会は半沢副会長の開会の辞に始まり、武田会長が卒業生も21,965名となり、新たに1,180名の方々が入学されたこと、近日、市ヶ谷駅前に日本大学会館が完成し、わが日大は益々隆盛をきわめていること、昨年は校友の「母校を訪ねる会」の第1回を催し、大変好評であったこと、菅野先生がこの度教授に昇格され、校友の母校での教授がこれで4人となり、誠に頼もしいと、終りにあたり、遠く九州、名古屋、東京等より、出席された方々へお礼を述べ、且つ本年度も皆様の御協力によって会務を無事に遂行したいと挨拶、次に議長の選出に入り、執行部一任とのことで、秦 裕(土6回)が選出され、書記に曾部忠義(電20回)、寺山喜信(土23回)、議事録署名人に、田母神忠孝(土6回)、金沢昭治(土20回)の各氏がそれぞれ選出され、議長挨拶の後、議事に入った。

議事内容下記の通り。

報告第1号 昭和56年度会務報告について

承認第1号 昭和56年度一般会計収支決算について

承認第2号 昭和56年度特別会計収支決算について

議案第1号 昭和57年度事業計画について

議案第2号 昭和57年度一般会計収支予算について

議案第3号 昭和57年度特別会計収支予算について

議案第4号 その他

議事の進行と結果は次の通り。

報告第1号：西村事業部長より総会要項(別紙)により説明報告あり、特に質疑なく、異議なく承認される。承認第1号と承認第2号：以上一括して、小栗経理部長より別紙要項により説明報告あり、次いで、会計監査を代表して、後藤会計監査より、監査の結果の報告がなされた。特に質疑なく、異議なく承認された。議案第1号：武藤副会長より別紙要項により提案説明あり、特に質疑なく、議決承認される。議案第2号と議案第3号：以上一括して、半沢副会長より別紙要項により提案説明あり。一般会計の式典費の内容と会員総合名簿発行事業特別会計予算の詳細について説明されたいと質問あり、半沢副会長が(1)式典費は入学、卒業関係の記念品及び会費徴収のための費用(2)総合名簿関係については、歳入は1部2,500円×1,800部(送料含む)、2,000円×100部及び広告料を見込んで予算を作成。現在予約受付中であると説明して了解され、採決の結果、承認される。議案第4号：その他特になく、全議案の審議を終了し、閉会の辞を武藤副会長が行ない、引続き、懇親会に入る。

懇親会には、日本大学本部から佐藤常蔵常務理事が出席され、会に花をそえられた。また、地元郡山市長の高橋亮先輩(日大工科卒)をはじめ、広川友雄工学部長、石田昭二工学部事務局長ら多数の工学部教職員の来賓も出席され、和気藹々(わきあいあい)のうちに、春の一ときを過した。



総会風景

昭和56年度一般会計収支決算書

歳 入 単位 円 △……減

款項	種 目	予 算 額	決 算 額	比 比 増 減	附記
	1 終身会費	5,000	6,211,000	6,206,000	
会 費	2 入会金	10,000	11,990,000	11,980,000	
	計	15,000	18,201,000	18,186,000	
継越金	3 前年度繰越金	20,542,102	20,542,102	0	
	計	20,542,102	20,542,102	0	
積入金	4 基本預り積入金	811,443	811,443	0	
	計	811,443	811,443	0	
確 入	5 預金利子	300,000	623,617	323,617	
	6 賦員負担金	260,000	285,129	25,129	
	7 預 収 入	11,455	23,400	11,945	
	計	571,455	932,146	360,691	
	合 計	21,940,000	40,486,691	18,546,691	

歳 出

歳	種 目	予 算 額	流用額	予 算 額	決 算 額	比 比 増 減	附記
	1 給料手当	3,270,000	30,710	3,300,710	3,300,710	0	賃費より
	2 保険料	440,000	16,790	456,790	456,790	0	"
事 務 費	3 交通費	500,000	0	500,000	500,000	0	
	4 旅 費	100,000	△47,500	52,500	52,030	△ 470	△47,500
	5 交際費	400,000	0	400,000	285,070	△114,930	
	6 消耗品費	130,000	4,829	131,829	131,829	0	備品費より
	7 備 品 費	150,000	△ 4,829	145,171	128,960	△ 16,211	消耗品費へ
	8 会員費	250,000	69,490	319,490	319,490	0	会員費より
	9 通信運搬費	230,000	67,290	297,290	297,290	0	"

日本大学会館の設計について

(株)伊藤喜三郎建築研究所

専務取締役 石島秀雄

日本大学創立90周年記念事業の一環として建設中だった「日本大学会館」が、この6月21日、2年6ヶ月の歳月を経て完成した。

この建築には大学本部の中核機能が全て集中されているばかりでなく、各種の研究所、国際会議用の特別会議室や資料展示ホール等も併せて設置されており、多角的な機能を備えているところから、今後の日本大学の教育・研究の発展に大きな役割を果す施設になるであろうと大いに期待されている。

設計は基本設計を理工学部理工学研究所、実施設計を伊藤喜三郎建築研究所がそれぞれ担当した。設計には工学部出身の多くのスタッフが関わったが、特に、構造設計は庄司勉君(建築6回卒)、中島康之君(建築13回卒)を中心とする工学部出身者のみのスタッフで行われた事を強調して置きたい。更に、工事監理については大学本部営繕課の糸田定彦君(建築7回卒)が主要な立場で行った事からも分るように、この会館の建設には、わが都山の工学部出身者の力が与って大いに貢献したと言えよう。

さて、この会館の内容を校友の皆さんに紹介するには、私の拙い筆によるよりは、又自画自賛にならないよう、大学本部が作成した竣工パンフレットの「国際化時代へ」と題した一文による方が簡明直截で分り易く、より客観的であると思いここに引用させて頂くことにする。

『21世紀に向けて、はばたこうとする本学の中核セ



ンター「日本大学会館」はこのほど東京都千代田区市ヶ谷の地に完成した。重厚なレンガ色の外観、機能的な内部施設からなり、正面左右にそびえるツインタワーは、日本の私学の雄として、1世紀近い伝統を持つ本学の象徴でもある。

地下2階・地上9階・塔屋2階建の新会館は、13学部をはじめとする部科校の教育・研究の場にふさわしい諸設備が完備している。

建物の意匠はすばらしく、外壁には、愛知県常滑産の精緻器質タイルと、茨城県稻田御影石が用いられているが、レンガ色と白の調和美は際立っている。タイルは約20万個が使われており、特殊工法によって100年の風雪にも耐えるという。アカデミックで、しかも重厚な威容は、学問の府にふさわしい。正面玄関のスペインガード20メートルあるが、この間に全く柱がなく、日本でも珍しい試みである。大学の門戸を広く社会に開く——という意味を持っている。

内部は機能的に、との設計の理想が生かされた。特に、低層棟の多目的の大講堂は、国際化時代にマッチして造られており、吸音、残音効果が抜群である。せり上り舞台、映像、放送、同時通訳などの設備が完備しており、近代的技術の粋が集められ、あらゆる国際会議に対応できるよう設計された。本学は、海外9大学と学術交流協定を結んでおり、外国人研究者との交流も盛んである。今後、こうした海外の優れた研究者との国際会議、研究発表、講演の場として、この大講堂が脚光を浴びる日も間近いだろう。

また、この大講堂の絵画は、「海に昇る太陽」を描いたもので、日展会員・京都の染色工芸作家、寺石正作氏の製作によるもので、優美、しかも雄渾な作品。太陽で、本学の輝く未来を象徴したといふ。

2階ラウンジには、学祖山田顕義伯の銅像原型が置かれている。

大講堂の横には、池を配した日本庭園が造られた。この庭園からは、さらに屋上庭園にも通じ、人びとの心のうるおいと豊かな詩情を誘う。

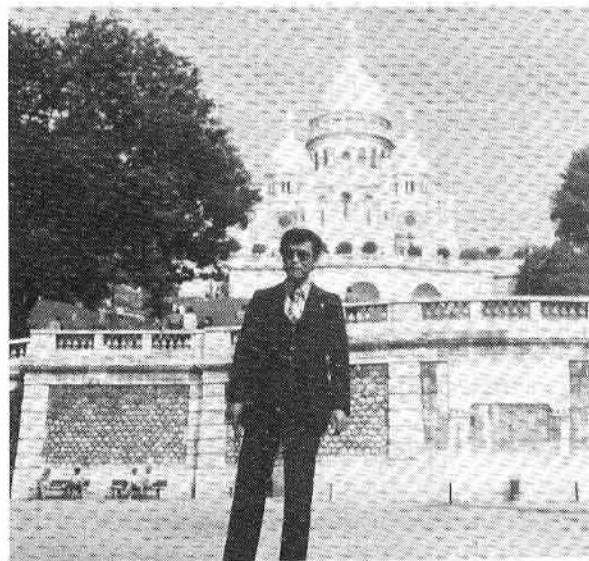
2階から9階までは、総長室、理事長室、本部事務室などのほか、資料展示室、さらに大小14の会議室もあり、大学機能の中核となって、有機的な効果を発揮することが期待される。

建築の諸元をいくつかあげると、敷地面積は約3,400m²、建築面積は約2,700m²、延床面積は約18,300m²、建物の高さは約44m、構造は鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階、地上9階建等である。

設計に当っては、意匠を理工学部小林美夫教授、構造を西村敏雄教授、設備を生産工学部の板木守正助教授の諸先生方が御指導下さった。又、理工学部田治見宏教授には風害問題の解決のため、風洞実験を含めた各種の分析、検討をして頂いた。この機会を利用して厚く御礼申し上げる次第である。(建築学科3回卒)

北欧の国、スウェーデンを訪ねて

東北断熱工事㈱ 菊地 和夫



[スウェーデンにて筆者]

■はじめに

1978年9月、生涯行く事は出来ないであろうと思っていた海外出張の機会を得、不安とときめきを、今なお思い出すにつけ、心が躍る想いでペンを取りました。

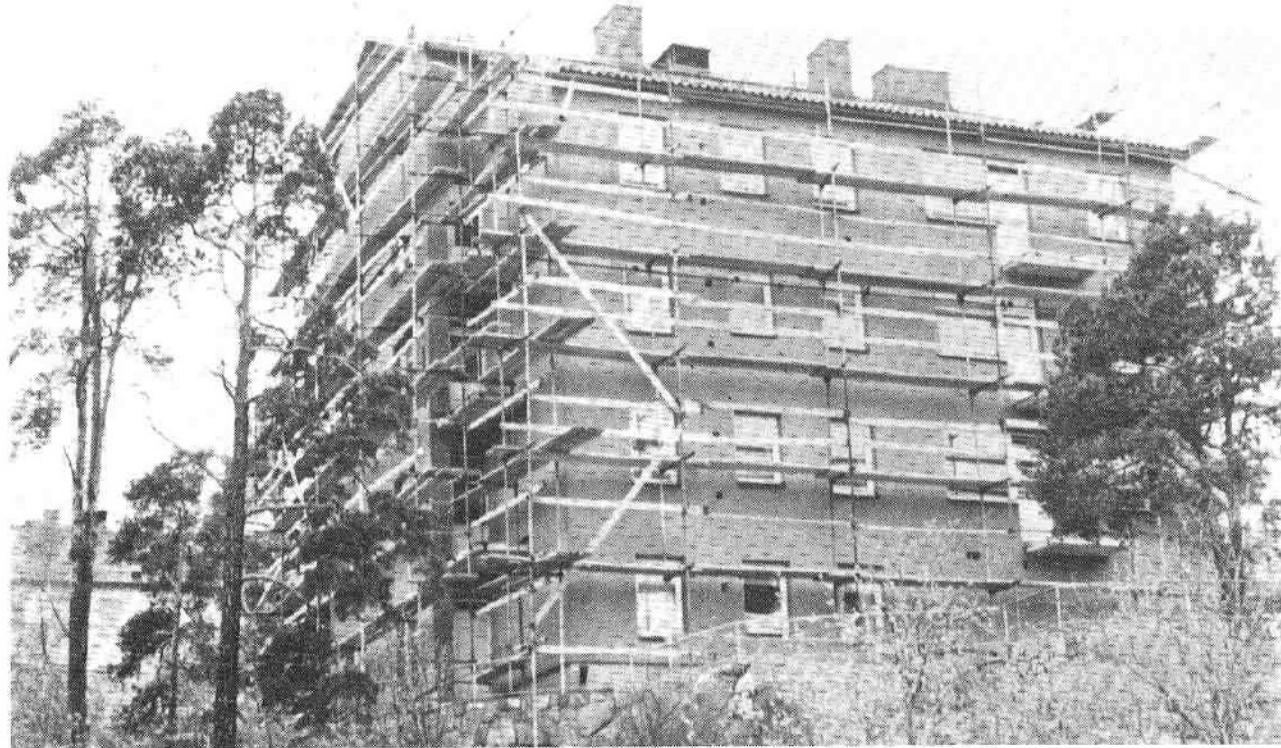
スウェーデンの9月と云うと、もうすっかり秋一色で、これから長い冬に向って周りの景色もひっそりとし、ビルを吹き抜ける風が何か物寂しげな街行く人

達を取り巻いていた。朝晩、薄氷が張るのかと思われるくらいの気候の寒さにコートの衿を立て、フリーセックスの国スウェーデンも話とはまるで違うこの現実にがっかりしながら、いやな時期に当ってしまったと悔んでも後の祭りであった。

Copenhagen(コペンハーゲン)からStockholm(ストックホルム)へ飛び、電車に乗り南部中央に位置する Skövde(シューブデ)のホームに降りた我々を出向かえてくれたMr. Anderssonは、ROCK WOLL AB社のマネージャーでここから我々の目的が始まった。

■スウェーデンの省エネルギー情勢

スウェーデンは、歌の文句ではないが、森と湖に囲まれた北欧唯一の工業国で生活水準は高く、世界でも有数の福祉国家である事は、皆さんもご存じと思う。と同時に、エネルギー政策については、世界をリードし、1990年以降の全エネルギー消費はゼロ成長を目指とする方針に向かって、種々の政策に着実に取り組み、断熱材の1人当たりの使用量は世界一で、社会及び各個人の省エネルギーの関心度に驚いた。また当時、我国のコンクリート系ビルの断熱工法は施工性が容易と云う事もあって、コンクリート打込工法が盛んで木毛セメント板やフォームポリスチレン系板がコンクリート内面に用いられる所謂、内断熱工法で、これに対して、



[外断熱工法の工場現場——スウェーデンにて]

ここでは常識化しているこの外断熱工法（建物軸体の外側に断熱を施す方法）を今までほとんど見る事のなかつた私には、新鮮なショックを受けた。

紹介を忘れたが、我社はグラスウールのメーカーで、製造と同時に、当時我々は内側からの断熱改修工法を主体とした事業部を作っていたが、この内断熱工法だけでは解決出来ない障害に突き当たっていた。この為我々には遅く外断熱工法の技術習得をすると云う使命、特に優れたスウェーデンの技術導入を目的としていた時であった。

また話は前後するが、スウェーデン政府も省エネルギーを考慮した建築基準の改訂や、省エネルギーの既設住宅の改善に対する補助や融資などの種類政策には、目を見張る物があった。日本のオイルショックも収まり、喉元過ぎれば何とやらとは大違いでいた。私の様な青二才が幾分経済社会評論じみた話になり、校友諸兄のお怒りを買うかと思われるが、当時の私は、大きなショックであった。

■工法の特徴と効果

一般に普及している断熱工法は、建物の内側から断熱材を取付ける内断熱工法と云われているもので、施工方法や使用する断熱材は、木造とRC造（鉄筋コンクリート）集合住宅では異なるが、内側から断熱施工している為、冷暖房効率は早い半面、逃げ易く、また結露が発生し易い、などの欠点がある。また更に、既設建物の断熱改修には色々な問題が絡む為あまり向いていない。

これに対して外断熱工法は建物の外側から断熱材を取付けるもので、居住したまま断熱施工できるほか、内漏結露を防止し、また外壁全体に取付ける為軸体を保護し、外装材をリフレッシュ出来ると云った特徴がある。

外断熱の効果の最大ポイントは、建物の熱容量の大きさを一種の蓄熱槽と考え、室内温度を出来るだけ変動させない様、建物構造体と室内での熱の収受を行なわせ、外気との熱の放散吸収を最小限にして、省エネルギーを達成させる点にあり、特にRC建築物の様な熱容量の大きい建物に適した工法として注目されている。

第2の効果は、結露防止に多大な威力を發揮する点で、新築の場合は勿論、既設建物の場合も壁構造の如何に拘らず有効に防止出来る。特にこの構造の場合は、断熱材と外装材の透湿作用が有効に働き、建物内部の湿気を外部に放出する特徴を持っている為、表面結露は勿論、建物の寿命を縮める内部結露も追放出来る訳である。

第3の効果は、建造物の耐久性の大幅な向上をもたらす事である。建築部材に於ても例外なく全ての物質は熱の移動により、膨張収縮を行なうが、外気に直接さらされる界面では内外面の温度差、朝夜、夏冬と、絶えず熱によるストレスを受けており、これが原因でクラックの発生、外壁化粧材の剥落、雨水の侵入等、その対策に苦慮している諸兄も多いと思われる。外断熱を施した場合は、内外の急激な温度差は断熱材内部で起り、構造軸体そのものは、略室温と等しく、その上温度差も小さくなり、歪みを生じない為、建物の耐久性の向上につながる。

特にこの工法（ダンウォール工法）は、CB（コンクリートブロック）、RC、ALC、木造と壁構造を選ぶ事なく、ステンレス製の簡単な取付金具によってロックウール板を取付け、特殊モルタルで外装仕上げをすると云うもので、吊り壁工法、また呼吸する壁として、興味を持たれている。

■技術習得を終えて

約1ヶ月の後、仕事であるとは云え、まるで余裕のない技術習得を終えた我々は、本場の“ダイゴ味”も味わう事なくスウェーデンを後にした。途中ハリの国際金物見本市に立ち寄った後、ムーランルージュも一見し、いよいよ帰国の旅につく私は、ハリ空港で最後の物色をしていた所、周りの異様な雰囲気に、慌ててゲートにもどるのとライトの時刻と同時であった。急いでゲートを通り抜け、両手の荷物を抱えて300m程の距離を全力疾走してたどりついた時は、扉がもう閉めかかっていた。Copenhagen（コペンハーゲン）行き国際線が、何分間も待っていてくれたのに、驚くやら、恥かしいやらドッと汗が吹き出すやらで、今思うと、あの時置いてきぼりにされ、家族と別れ離れに

省エネルギーと結露防止のための新しい断熱工法 ダンウォール工法

豊かな暮らしをつくる日東紡グループ

パラマウント硝子工業 (株)工事部

〒963
郡山市長者町3の8の1 東北断熱工事(株) ☎(0249)52-3444

そこで永住した方が良かった様な気もしたり……。

■おわりに

その後、外断熱（ダンウォール工法）の仕事に追われ、また幾度か別工法ともめぐり合う度に、この工法の優秀さを認識しつつ、また今まで幾度となく恩師の

方々、建築の先生方の良きアドバイスを頂き、今日まで至った次第です。

尚今後共、校友諸兄の御意見、御指導を願いつつベンを置かして頂きたい。（工業化学科19回卒）

図-1 断熱なしの場合の温度分布

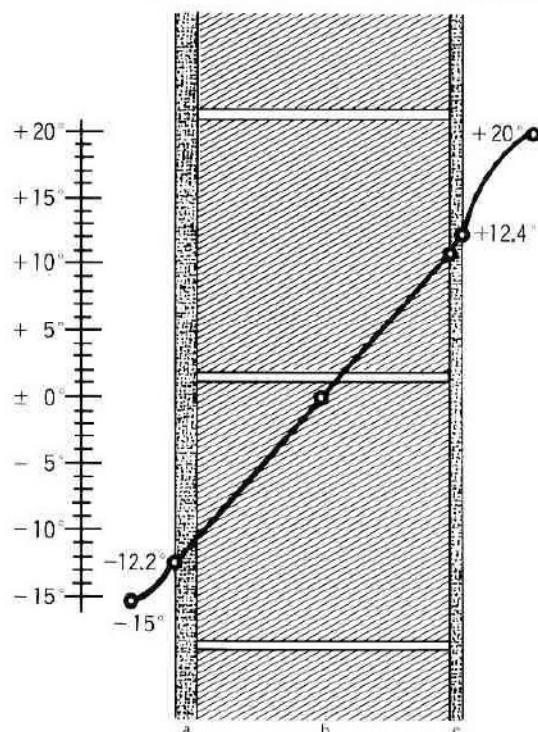
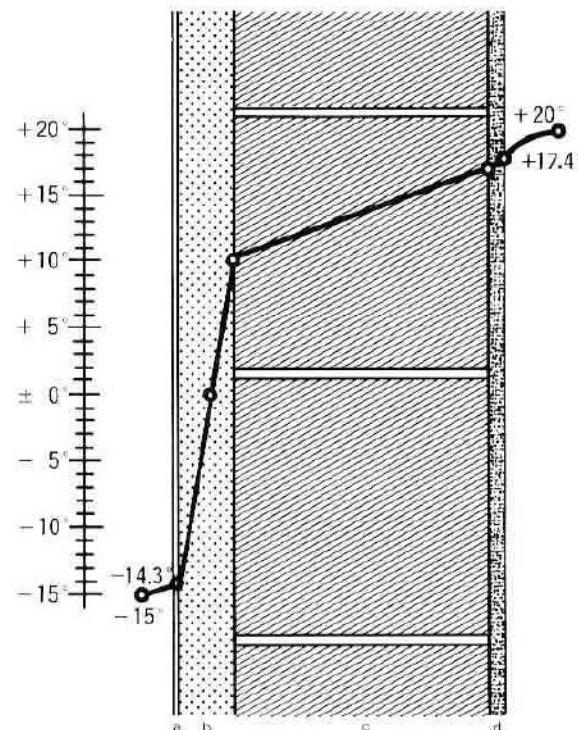


図-2 外断熱の場合の壁内の温度分布



校 友 短 信

土木工学科

◆黄 鶴周（3回卒、大韓民国延世大学校工科大学土木工学科教授）

帰国後、延世大学校で、22年間教授生活をしております。その間、同窓生が韓国に来て連絡があり、会って学生時代を語りあっております。母校の発展を心から祈ります。

（57. 3. 19受）

◆川名寛章（旧姓井上）（16回卒、川名工務店）昭和56年3月から社長になりました。今後ともよろしくお願ひ致します。

（57. 7. 17受）

◆高橋和孝（17回卒、山崎建設㈱）山崎建設㈱海外事業本部工事課に勤務していますが、現在インドネシアで頑張っています。

（校友会の事務局へのお便りや、連絡などから）
（無断で掲載いたしました。ご了承下さい。）

建築学科

（57. 1. 19受）

◆橋本正己（旧姓井川）（19回卒、いづみや設計事務所長）

演物製造販売業の和泉屋本店の専務もやっています。皆さんによろしく。

（57. 3. 18受）

◆水口哲郎（21回卒、㈱水口建築設計）

48年3月に卒業しましたが、本年4月より建築設計事務所を開設しましたので連絡いたします。不況厳しい折ですが、思いきって開設しました。精一杯頑張る所以ですので、今後共よろしくお願ひいたします。仕事場は自宅と同所です。

（57. 3. 19受）

◆楢木佳弥乃（23回卒、大成建設㈱建築本部）
今年の夏から、米国アリゾナ大学（州立）の大学院に籍を置くことになりました。 (57.3.18受)

機械工学科

◆浜崎次郎（専1回卒、日本鋼管㈱大阪営業所技術サービス室）

53年8月に住所を変更しました。「日大工学部30年史」には拙文を載せて貰ってあります。郡山市台新に母が住んでいますので、時折、郡山に行っていますが、仲々母校まで足がのびません。来年は機会を作って、外木先生はじめ諸先生方にもお会いしたいと思っております。

(57.1.12受)

◆松延好則（12回卒、㈱西島製作所設計部係長）

一日一日と暖かさを増す今日この頃、校友会報を見ても、母校の発展を楽しみにしている次第です。今般住所を転居しましたので、宜しく御配慮方御願い致します。母校の益々の御発展を祈っています。

(57.3. 20受)

◆斎藤吉治（18回卒、松下電器産業㈱）

現在マレーシヤに居住します。（No32 SS3/82 Petaling Jaya Selangor Malaysia） (56.11.25受)

◆田中伸志（21回卒）

1981年9月にブラジルの永住権を取得。鉄鋼業を中心とする各種工業炉の耐火物工事の建設およびメンテナンスを施工。自営です。

(57.3.23受)

◆会沢 光（22回卒、新日本電気㈱東京第2工場テレビ事業部技術部機工設計課）

現在、テレビ関係の設計の仕事をしています。日本大学工学部の卒業生として恥かしくないよう、これからも頑張りたいと思います。

(57.1.27受)

◆水口大三（26回卒、三島市立北上中学校教諭）

卒業してはや5年、月日のたつものははやく、もう先輩と呼ばれるようになり、職務に責任を感じて

います。母校の発展を祈ります。

(57.5.17受)

電気工学科

◆松永忠興（10回卒、石川島播磨重工業㈱汎用機事業部設計部課長）

先日は校友会報（第39号）をお送りいただきありがとうございました。「母校を訪ねる会」が実施されたとのこと、大変嬉しく拝見いたしました。

(57.3.31受)

◆嶋貫武夫（17回卒、大隈豊和機械㈱貿易部貿易課）

米国駐在を終え、帰国しました。校友会報をAIR-MAILしていただきありがとうございました。今後共よろしくお願ひ致します。

(57.6.17受)

◆長 元基（20回卒、日紘実業㈱）

昨年1月より社名によりインドネシア勤務となり赴任致しております。

(57.3.15受)

◆安田正春（21回卒、大手興産㈱東海事業所）

現在、日本原子力研究所東海研究所 核融合JT60開発室、に所属しています。

(57.4.13受)

◆相馬 聰（23回卒、アルバイン㈱アルバインエレクトロニクスGMBH）

現在、ヨーロッパサービス課に所属し、西ドイツのデュッセルドルフに勤務しています。

(57.3.15受)

工業化学科

◆斎藤 央（17回卒、㈱島忠、川口芝店、営業次長）

オリエンタルメタルに7年間勤務後、現在の会社に移りました。今年の2月4日に東証2部に上場することができ、業界初と言うことで張切ってやっております。

(57.3.12受)

◆小山賢一（20回卒、(株)アキタ 開発研究所）

本年2月までの約10年間、長野市の㈱小賀坂スキーワークス研究部に在職、円満退職し新たな気持ちで現在の会社に就職しました。在学中はスキーワークスにいました。先日は強化合宿におじゃまし、伏見先生やスキーワークス員となつかしい話ができました。

(57.5.18受)

支部だより

◆九州支部総会開催される

矢俣 敏之

博多山笠のフィナーレ「追い山」の日の7月15日に、武田仁幸工学部校友会長初め本郷忠敬先生他諸先生多数を福岡市の城山ホテルにお迎えして、第3回九州支部総会を50数名の参集のもと開催致しました。社会の景気も厳しい折に今年の九州全域に異常渇水で4年前の悲夢の再現かと心配していたのですが、この総会の前日より記録破りの大雨により一気に解消し、会場に集まられた皆さんにも、ほっとした面持でのぞんでおられる方が多かったです。

武田会長の挨拶では、年に一度お会いするということから「七夕さま」との言葉に始まり、母校を盛り上げるには親睦以外にないという強い信念と、心あたまる話に全員本校の卒業生であって良かったと再認識したものです。川越支部長もお互の親睦を通じ母校の発展に寄与する目的により、一致団結し少しづつではあるが確実にその波紋を広げつつあること、その一環としてアカシア会の名称でゴルフコンペを2回実施し、定期的に行う方針との発表もあり、武田会長初め諸先生方と大いに語らい、時間を忘れ歓をともにしたものでした。最後に全員で肩を組み校歌を高らかに齊唱し校友会の発展を願いつつ散会しました。

(建築学科8回卒、新九州支部長)



◆東海支部総会開催される

伊藤 義人

第9回東海支部総会は去る6月26日、名古屋駅前ホテルキャッスルプラザで会員多数の出席のもとに、盛会に開催されました。

総会は、平野卓支部長(土木3回)の事業報告を含めた挨拶で始まり、続いて本部から出席した太田雄八郎参事より、みちのくに東北新幹線が開通し、遠距離感

がなくなった事を交えながら校友会全般の活動状況、学校の近況等の報告があり総会を終了した。

引続いて懇親会に入り、鈴木平八(機械1回)氏の乾杯の音頭で始まり酒が入るにつれ、歌や、なつかしさで話もはずみ最後までだれ一人帰るものもなく、校歌、日大節等なごやかな内に、会員相互の親睦をはかり、万才三唱で閉会した。(電気工学科16回卒、本会理事)



◆北海道支部総会開催される

藤林 義広

7月15日、第9回北海道支部総会が札幌、ホテル「ノースシティー」に於いて、午後6時より約50名の出席者を得て盛大に開催されました。大学側より片山将道工学部次長、校友会本部より佐藤光正事務局長、その他諸先生方の参加がありました。片山先生、三上支部長の挨拶のあと懇親会に移り、和気藹々の雰囲気で会員相互の親睦を深められ、力強く感じられました。会員諸氏が各職場に於いて指導的立場に立って頑張っており、今後の北海道支部の活躍が大いに期待されます。最後に全員で北心斎々歌、校歌を声高らかに歌い、万才三唱を行ったあと散会しました。

(土木工学科17回卒 北海道支部事務局長)



昭和57年7月豪雨によって被災された

九州地区の校友にお見舞い申し上げます。

CAMPUS

mini

MEMO

◆校友の母校での教員

- ・昇格（昭和57年4月1日付）
教 授 機械工学科 菅野宗和（2回卒）工博
専任講師 機械工学科 岡 憲治（17回卒）
- ・新任（昭和57年4月1日付）
専任講師 機械工学科 河井宏文（9回卒）
- ・退職（昭和57年3月31日付）
専任講師 建築学科 倉田正春（18回卒）

◆大学院だより

課程修了による学位授与（昭和57年3月25日）
建築学専攻 出村克宣
建築用レジンコンクリートの開発に関する研究
大学院工学研究科の課程博士（工学博士）の第3号
になります。

◆図書館が開架方式に

57年4月から開架閲覧方式になり、開館時間も次のように延長されて便利になった。
平日 午前9時～午後5時30分
土曜日 午前9時～午後2時
6月中の入庫者は6,415名で貸出冊数は3,737冊であり、1日平均では247名の144冊となります。
一般の校友は、図書館窓口で届出をすれば自由に入庫できます。4月以降に30名ほどがこの制度を利用しております。

◆中鉢禎一先生御逝去

元電気工学科専任講師の中鉢禎一先生は、昭和57年2月26日、郡山市内の病院で逝去されました。享年65才でした。

中鉢先生の御遺族は、中鉢先生の蔵書の約685冊を大学にご寄付になりました。大学ではこれらのうち、166冊を学部図書館に、残りを電気工学科のセンターに保管して、自由に閲覧できるようにしました。

◆石嶋・高田氏が講演

両氏は在学生に対して、次のよ

うな講演を行なった。

新入生歓迎講演会（4月7日）

「国際化社会を生きぬく技術者への道」

石嶋秀雄氏（建3回卒、株伊藤喜三郎建築研究所専務）

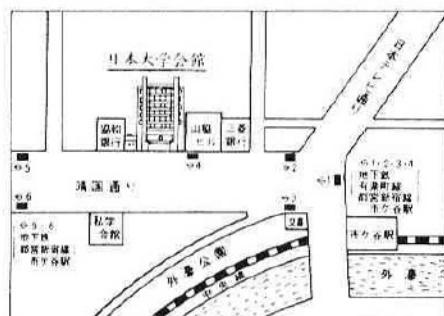
就職講演会（5月17日）

「活力ある社会人と期待する人間像」

高田昌実氏（電1回卒、東京電力総合建設部建設電気担当部長）

◆日大会館が落成

創立90周年記念事業の一環として建設中の日本大学会館が落成し、去る6月21日に式典が行なわれ、本会からは武田仁幸会長と松山光克本部評議員が出席した。7月上旬に西神田の本部機構はすべて市ヶ谷に移った。



〒102 東京都千代田区九段南4-8-24
TEL. 03-262-2271(大代表)

◆キャンパスの春

学生の課外活動のクラブが約90あり、新入生を迎えて、桜の下での勧誘風景の写真です。新入生歓迎行事の講演会は、体育会が遠藤純男氏（元柔道世界チャンピオン）で、学術文化サークル連合会が加藤諦三氏（早大）でした。（た）



昭和58年度入学試験

日本大学工学部

◆入学試験

入試期日（試験日）

昭和58年2月15日(火)

建築学科・電気工学科・工業化学科

2月16日(水)

土木工学科・機械工学科

試験場 郡山試験場（工学部校舎）

東京試験場（大経済学部校舎）

入試科目 外国語：英語B

数学：数学I・II B・III

理科：「物理I・II」「化学I・II」の
2科目から1科目選択

募集人員 約650名

◆推薦入学

普通・理数科：（資格）指定した高校の普通科・理
数科を昭和58年3月卒業見込で学業成績

〔事務局だより〕

- 会員管理の電算化を始めてから丸3年が経ち、7月末で会員全員(21,965人)の入力がすべて完了しました。会員の皆様のご協力に感謝いたします。
- 会員番号は、電算機が打ち出した郵便の宛名の左下の7桁の数字で表わされています。(右下の数字は関係ありません。)

(例)

1	3	0	3	5	0	1
---	---	---	---	---	---	---

(学科別)(卒業回数) (卒業証書番号)

従って、この(例)は土木工学科第30回卒業の
証書番号3501となります。

(学科別)
1 土木工学科
2 建築学科
3 機械工学科
4 電気工学科
5 工業化学科

(卒業回数) A1～A2 専門部工科(郡山)の
1～2回卒業

01～30 第二工学部・工学部
の通し卒業回の数字

7桁がすべて同じ人は自分以外にはいないわけです。
●名簿の登録事項に変更が生じましたら、直ちに事務局へ連絡して下さい。電算機に入れ替えて、最新の情報を入れておくことにしています。

- 「会員名簿昭和57年版」をこの9月に発行します。
会報No39号で知らせましたように、前金で申し込む
ようになっておりましたが、余裕が少しありますので、希望者は大至急申し込んで下さい。1部2500円
(郵送がいらない時は2000円)です。約450ページの大冊です。
- 工学部祭(北桜祭)は10月22日～24日に決定しました。
母校を訪ねる会は10月24日(日)に開く予定です。今年

は評定平均値の平均が3.8以上の者。

(推薦人員)一高校あたり2名以内

工業科課程：(資格)高校工業課程を昭和58年3

月卒業見込で学業成績は評定平均値の
平均が4.0以上の者。出願できる学科は
本人の履修した専門学科に関連のある
学科に限る。

(推薦人員)一高校あたり土木、建築、機械、
電気、工業化学、各学科2名以内

出願期間：昭和57年10月20日～10月30日

試験日：昭和57年11月15日(月)

面接、英語・数学の参考試験及び作
文を行ふ。

募集人員：約190名

問合せ先：日本大学工学部入試係
(電話0249-44-1300)

の該当する会員(4回～7回生)には別便でご通知し
ますが、予定を立てておいて下さい。

- 校友会報に掲載する「広告」について、会員のご協
力をお願い致します。

北海道支部

支部長 三上 茂(機8回)三上建設㈱

事務局長 藤林義広(土17回)札幌市役所交通計画課

東京支部

支部長 古村和夫(土3回)古村建設㈱

東海支部

支部長 平野 卓(土3回)建設省中部地方建設局
丸山ダム管理所

事務局長 河野 叶(土6回)東名開発㈱

九州支部

支部長 矢俣敏之(建8回)株大林組福岡支店

事務局長 陶山順一(建15回)陶山建設

校友会報第40号

発行所 日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定字中河原1

郵便番号 979-66

電話番号 郡山(0249)44-1327

振替口座番号 郡山1990

発行日 昭和57年9月1日

発行者代表 会長 武田仁幸

編集者代表 事務局長 佐藤光正